

小竹

(おだけ)

古賀で最初に出来たプールは、実は防火用水だった。近くに泳ぐところがない子ども達のために、地元の人たちが手作業でこしらえた。勝浦浜(現・福津市)に馬車で玉砂利を取りにいき、湧き水の場所に防火用水と銘を打ち、保健所などと相談してプールとして使用した。農休日の1日と15日には、公民館から放送が流れた。人が集い、和をもって集落を成す。平日はしっかり働き、祝いの日には、衆人が集まり、ともに楽しむ。そんなごくごく当たり前のことが、今もなおしっかりと息づいている集落、小竹。



おだけ かんのおんどう
小竹観音堂 **A**

糟屋北部新四国八十八箇所霊場の49番札所の小竹観音堂は、釈迦如来が御本尊として安置されている。観音堂ということで黄金に輝く立派な千手観世音菩薩が安置されており、1532年に桧木一本造りで制作され、1624年に観音堂が建設されて1883年に修復工事が行われている。また、地藏菩薩は1716年に奉納された経緯があり、現御本尊(釈迦如来)は、平成元年10月に奉納されている。



さぶらうてんじんしゃ
三郎天神社 **B**

小竹地区の中心的存在。お日ごもりや天神座、御十七夜等、様々なお祭りが行われる。明治時代に書かれた青柳村の村史にも、菅原天神社であるが由緒は不詳と書かれている。一般的には天神社は雷よけの神様という説もある。

※御十七夜(おじゅうひちや)
7月17日、観音様デーに行われる子ども中心のお祭り。子ども達は各自が家から持ち寄ったものを、お客さんや他の子ども達に売りさばく。当然、売上は子ども達の取り分となる。現在は親御さん達もお手伝いしているらしい。

じゆず
数珠まわし

法事のときに、大きな数珠をみんなでお経に合わせて回す、かなり珍しい作法。宗派は問わず、真中で音頭を取る人がいる。残念ながら現在では行われておらず、数珠は納骨堂に今も収められている。

とくながそうへい
徳永惣兵衛

小竹の超有名人。甘薯(さつまいも)栽培の研究家。徳永式甘薯栽培法(かぶらうえ)を生み出し、指導・普及に努める。当時は視察もかなり多かったらしい。

えびす様

えびす様は、福岡と若松、通常年2回だが、小竹は珍しく4月に地元のえびす様がある。

天神祭(おくんち)

11月25日に行われるお祭り。にいなめ祭とも、お座ともいわれる。この時期には珍しく、お雑煮が振舞われる。

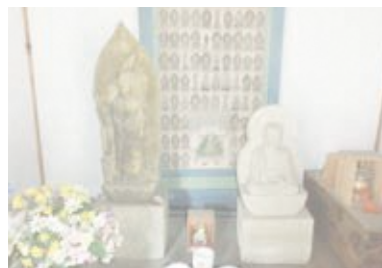


しょうめんこんごう
青面金剛 **C**

目が3つ、手が6本。古賀では非常に珍しいもので、江戸時代(第8代将軍・徳川吉宗 1716年~1745年)に制作されたらしい。



防火用水 **G**



おだけやくしどう
小竹薬師堂 **D**

糟屋北部新四国八十八箇所霊場の50番札所になっています。



おだけじぞうどう
小竹地藏堂(くぎ抜き地藏) **E**

糟屋北部新四国八十八箇所霊場の51番札所になっています。



おだけじゅういちめんかんのんどう
小竹十一面観音堂 **F**

とにかく古い仏像で糟屋北部新四国八十八箇所霊場の52番札所になっています。

※千人参り、お大師様参りと称して明治13年以来、糟屋北部新四国八十八箇所霊場の巡礼が、今日まで絶えることなく延々と続いています。